

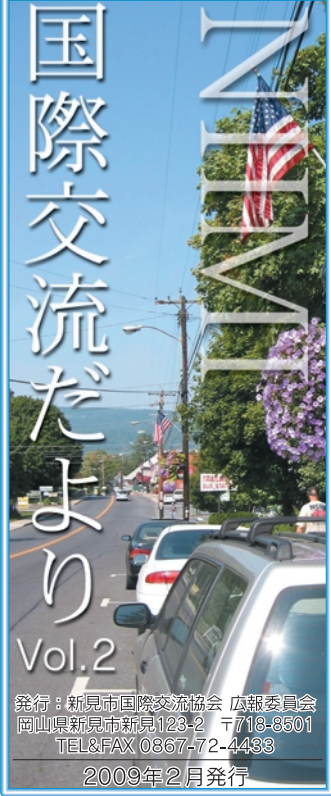
姉妹都市縁組10周年を記念して9月初め、新見市国際交流協会市民訪問団の一員としてニューパルツ・ビレッジを訪れました。ニューパルツとの国際交流に参加するようになり5年目にして初のニューパルツ訪問です。私を受け入れてくれたクロック夫妻とは3年ぶりで、以前ホームステイで受け入れて以来の再会でした。

日本を出発してからほぼ1日。歓迎会の開かれるデヨ・ホールに到着すると、バスの音に気付き、ニューパルツの人たちが出迎えてくれました。すぐにクロック夫妻を見つけてあいさつを交わすや、



ホストファミリーのクロック夫妻と

ニューパルツ初訪問



ぎゅっとハグ（抱擁）され、日本ではすこしためらわれるこのパワフルな温かさに疲れも吹き飛びました。ここは「こんにちは」よりも「ただいま」がふさわしい町なのです。

2日目には国際交流協会長のデビッド・カッカモさんの家にお邪魔しました。日本の古民具や古美術を収集しているカッカモさんの家は、日本人の私たちも驚くほど「日本的」。訪問に合わせて庭の枯山水をかき直してくれるなど、心憎い「おもてなし」も。

その日の昼食



地元紙の表紙を飾った訪問団

上海空港到着後、中国三大河川の長江、黃河流域の蘇州、無錫、開封、洛陽を経由して河南省信陽市に到着。3日間の滞在の中に、市当局、市民の皆さんの熱烈なる歓迎、心温まる歓待を受け、敬意と感謝の気持ちでいっぱいであり、終生、忘れることのできない貴重

訪中団 副団長 安達友恒

「15周年記念新見市市民友好訪中団派遣を終えて」

新見市と信陽市との友好姉妹都市縁組15周年の節目の記念すべき年に、また、中国13億国民の念願の北京オリンピック開催の年、派遣団員の一員として、まさに千載一遇の好機に訪中、信陽市訪問の機会を与えて頂きました。

これまで、中国には、華南、華北、東北、内モンゴルの4地域を訪れましたが、回を重ねるたびに、悠久の歴史と文化、広大な国土に魅せられました。

信陽市訪問は、中国紀行の集大成として大変意義深く、国際交流、理解の大切さを再確認いたしました。

新見市市民友好訪中中には、市民レベルの交流を図るため8名の参加がありました。4月23日岡山空港を出発し、信陽市市民と交流を深め、同月30日に帰国しました。

今回、参加した副団長のレポート（二部）を紹介します。

信陽市市民との交流深まる



信陽市瀋河区 第三小学校訪問

な想い出となりました。

特に今回は市民レベルの交歓、相互交流ができ、同アジアの同胞として、これまで以上に中国の人達に親近感を持つことができました。

一方、経済大国として、近年、驚異的な発展をしている中国の姿に驚くとともに、国家や人民の活力を肌で感じました。世界の超大国の中国との緊密な関係を構築していくことが、これからの日本の将来を左右することを確信しました。

今回の訪問が、新見市と信陽市相互のレベルの交流の新しい一歩となりますことを願っています。

派遣に対し、多大なご支援、ご協力をいただいた関係各位の皆さんに厚くお礼を申し上げます。



美しいシドニーの町並み

カナダ・ブリティッシュコロンビア州シドニー市訪問

6月30日、新見市はカナダのブリティッシュコロンビア州シドニー市と姉妹都市協定を締結しました。同市との交流は、新見市内の中学生がシドニーでホームステイを行っていたことや、2006年にエイモス市長をはじめ、姉妹都市協会関係者が新見市を訪れたことから本格的な交流が始まりました。そして、シドニー市やシドニー姉妹都市協会、また、新見市出身でシドニー市在住の飯田恵巳さんの協力を得ながら、この度、晴れて調印に至りました。

6月29日、石垣正夫新見市長を団長とするカナダシドニー市公式訪問団員4名が新見市役所を出発

コンソーシアム大学生との思い出

9月26日(金)～28日(日)まで京都アメリカコンソーシアム学生9名が新見市を訪れました。学生たちはホームステイで、日本の一般家庭の暮らしを体験しました。

26日の山村開発センター1Fで行われた対面式では、学生たちの紹介、各ファミリーごとの簡単な懇談会の後、それぞれのホストファミリーと一緒に帰宅しました。

ボストン大学のアレックス君を受け入れた、大佐小阪部の大田さんの家では、家族の一員のように普段どおりの生活で接しました。

初日の夕食のメニューは「天ぷら」に！箸を上手に使っているのに家

庭ごとに楽しい3日間を過ごすことができました。

(瀧崎昌恵)



スコアを見ているアレックス君と大田ファミリー

今後の両市の交流の発展のためには、行政主体の交流だけではなく、各分野における市民同士の交流も大切です。新見の静寂な山々のように、シドニーの優しく穏やかな海のように、豊かで心温まる今後の交流の可能性にさらに期待が膨らみます。

(柴山芳徳)



エイモス市長と調印する石垣市長

20年度の出来事



●中国信陽市瀋河区からの留学生歓迎会
6月6日～7日吉備国際大学に留学している8名を招き歓迎会と市内観光で親睦を深めました。



●セブテンパーコンサート
9月11日「まなび広場にいき」で開催。音楽を通して「平和」を祈るコンサートにたくさんの方々が来場していただきました。



●外国語講座
10月～12月、英語・中国語・ハングル講座を開催。回を重ねるごとに、それぞれの言語での会話が出来るようになりました。

これからの予定

●国際交流ふれあいデイ：3月15日午前9時～午後1時30分 新見市憩いとふれあいの公園 グラウンドゴルフ場（雨天時は屋内）

編集後記

交流だより復活いたしました！ほとんど2年ぶりの発行です。この間、組織の編成も変わり、新たに選ばれた広報委員による「新」交流だよりです。アメリカ班、カナダ班、中国班それぞれのニュースを年に一度お届けします。最新ニュースは公式ブログ <http://niimi4433.exblog.jp> で協会のイベントや各種語学講座、セミナーなど更新中！投稿、取材などご協力よろしく申し上げます！
(広報委員長 津田秀俊)

ニューパルツ姉妹都市交流写真展が開かれました。



新見市の姉妹都市、米ニューヨーク州ニューパルツ・ビレッジの日本人写真家トミコ・シラキガワ・コーエンさんの写真展「WE HAVE A DREAM!」が、昨年12月12日から25日まで、まなび広場にいみ(新見)で開かれました。写真を通じて交流を深めようと初めての試みでした。

今回の写真展の「WE HAVE A DREAM!」は、キング牧師の「I have a dream」で有名なスピーチをもじったものです。人種を越えた融和をキング牧師は夢見ました。姉妹都市交流を通じて、私たちもまた人種や国境を越えた友情を深めていきたいと思っています。

写真展では、1960年代のアメリカの公民権運動やニューヨークの黒人居住区ハーレムで暮らす人々を撮ったモノクロ写真25点が展示されました。20万人以上が参加した63年のワシントン大行進、黒人解放指導者マルコムXらの演説、黒人イスラム教徒の集会、ハーレムの日常など写真もさまざま。力強いまなざしや弾ける笑顔に当時のアメリカの様子を想像しました。

来観者からは「当時の人たちの情熱が伝わってきた」「トミコさんと話してみたい」など感想をいただきました。「トミコの間で写真交流を続けていく予定です。次回はどんな写真展になるでしょうか。」
(津田秀俊)



12月20日(土) 14時

演題 『アフリカ系アメリカ人の文化について』

講師は黒人の音楽や言語に造詣の深い、岡山県共生高校勤務の尾山 誉さん。アフリカから奴隷として連れて来られ、差別を受けてきた黒人の歴史や、その中で表現された音楽や詩、黒人言語に触れる内容でした。途中、ラングストン・ヒューズの詩「クロス(混血)」の英語朗読や、ビリー・ホリデーの歌を聴いたりしました。



12月21日(日) 14時

演題 『ニューパルツと黒人たち』

講師はニューパルツとの姉妹都市交流に縁組当初から深く関わる、新見公立短期大学准教授の山内圭さん。自己紹介も兼ねた学生時代のエピソードや、映画や小説に表現される黒人と白人の関係などが紹介されました。そしてニューパルツにおける黒人奴隷の歴史、ニューパルツと黒人に関わる話を聞きました。



心が響きあう瞬間

この2・3年の間に新見周辺に住んでいるA.L.Tの人達との接点ができ、何か日本的な行事を家庭でできたら…との思いで、昨年の夏は「七夕ゆかた会」をしました。



当日はそれぞれが新調した浴衣や借り物の浴衣、中には新見若連のハッピまで借りてきての18人。着付の先生にも帯の結び方を指導していただきました。まずはメンバーの一人が用意した笹竹に願いをこめた短冊を結びつけました。やはり共通の祈りは「世界平和」で、中には「すてきな日本人の恋人ができましたように」などブライベイトな祈りも。織姫とひこ星のストーリーに「ファンタスティック」の声も連発して、星空の下で夜も更けました。会が終わる頃には帯も緩み、着物が乱れても、着物文化のない若者達には気にせず踊り出し、心から楽しんでるようでした。それぞれの国にいろいろなお祭りがあるけれど、この「七夕」もまた、ロマンティックで胸踊る行事

六人目のホームステイ

今回、我が家にとって6回目のホストファミリーで、約1年のロングステイは2回目です。クラスは8月にドイツから来ました。うちに来て17歳になりました。ドイツの田舎で生れ育った彼は、明るくて素直で無邪気です。ブレイメン(サッカーチーム)が大好きで試合があるときは3時半とか5時半とか…時差に關係なく起きて応援しています。地域の行事や社会人サッカー、社会人バスケットにも参加させて頂いているので、皆様にも感謝しています。家に帰ったら、パソコンにとらめっこしているけど、それはそれで仕方ないのかな?と思います。



娘夕佳とクラスくん(自宅の居間にて)

だと、私までも幸せな気持ちにさせられた夜でした。

また12月には、今年最後のイベント、囲炉裏を囲んでの忘年会「鍋パーティー」をしました。A.L.Tからは2人の出席で、その日はインドネシアから矢崎新見工場に来ているエンジニアのスクンさんも加わりました。日本語が堪能で笑顔のやさしい好青年。モデルだった新婚の奥さんをおいて来た事が心残りと思つた。アメリカ、ジャマイカ、インドネシア、日本とそれぞれの人達がまさに一つの「鍋」をつくる…そこにはもう国を意識することもなく夜が更けるのを惜しむ程に延々と会話が弾み、気持ちよければ心が通うことを強く感じました。こうして出会った人達とも、国を越えた気軽な関わりができる場を作り、思い出の一コマが共有できたらと私も仲間に入っ



Across the border (加藤百代)

はありますが、家族と留学生のクッション役ができるか?!にもかかわってきます。ある程度大きくなっている子供で、お国柄の違い、生活、習慣、風習、性格、クセ、それをお互いにどれだけ認め合えるか?!私は我が子同様と思ひ接していても、同年代の子供達には理解できない時もあり、「せっかく日本に来たのに!」「なんで片付けが出来ないん?」「お母さん手を出し過ぎ!」……と子供達のストレスになるのも心が痛いです。私はクラスが不自由していかないか?!寂しい思いをしていないか?!遠慮していかないかと心配になります。責任と勇気と信頼を持って我が子共々、何でも話せる「居場所」でいたいと思います。

忙しい日々の中で子供達をほったらかしになってしまう事が多いけれど…陰となり日なたとなつて支えてくれる家族に感謝しています。人の生活に興味のない事はないから、今の生活も目に見えなくても、お互いの成長に役立っていると信じています。



(小倉邦子)